

「地域力の達人」にこうして

○発行までの経緯について

今回発行しました『地域力の達人』は、相模原市地域活動事例集（自治会編）平成21年度版」は、地域における公共的な課題解決を自主的に実行している「自治会」の活動を中心に事例集としてまとめ、広く市民の方に情報提供したいと考えて、昨年度に引き続き作成したものです。

自治会は、日々の公共的な活動に加え、新たな領域の活動にも取り組むなど、地域における役割の重要性が増す一方で、担い手の不足や、役員の高齢化、活動への参加者の減少、未加入者への対策など多くの課題を抱えています。

これらの課題は、今に始まったことではなく、長年にわたって自治会の皆さんを悩ませてきた課題だとは思いますが、近年の少子高齢化や都市化の急激な進行により、その問題がさらに顕著になってきたといえます。

例えば、平成17年度に相模原市自治会連合会が行ったアンケート結果等によれば、自治会活動の主な課題には、次のよう

なものがあります。

自治会加入率の低下
地域活動の担い手不足
地域活動参加者の減少
役員の高齢化、地域の子どもの減少
団塊の世代の地域帰帰への対応
ボランティアや市民活動の更なる充実
地域人材の育成
一人暮らしのお年寄りの増加など高齢者対策
行政側の縦割りによる、地域団体の縦割り、行政からの依頼業務の増加 など

自治会の加入率の低下や参加者の減少など自治会自身が解決すべき課題もありますが、広く公共的な活動を担っていることや、住み良いまちづくりを目指す中で行政が推進する事業等に協力をいただいていることが、自治会の皆さんの負担感を増加させ、役員の担い手不足に繋がっているという側面もあります。

自治会の皆さんが主体的に行う活動を充実させる上においても、行政からの依頼業務についての見直しが必要な時期を迎えているといえます。

このような課題や問題に対する対策を考えるため、相模原市自治会連合会では、内部組織として平成19年7月に「地域を元気にする検討会議」を立ち上げ、相模原市自治会連合会の役員だけでなく、地区社会福祉協議会、公民館、行政の関係者を変えて、自治会の諸問題について検討を進めてきました。

その結果は提言書としてまとめられ、行政に対する提言として、「地域活動を知るための研修の企画実施」や「市の広報媒体を使った自治会活動情報の周知の充実」という項目もありました。

この事例集の発行は、この行政に頂いた提言を実現する取り組みとして実施されましたが、自治会活動の取材を職員研修の一環として行うことで、職員が直接地域活動を体験することのできる貴重な機会にもなりました。

○地域政策形成能力開発研修

今回実施した地域活動を知るための職員研修とは、本市では、「地域政策形成能力開発研修」と呼んでいます。この研修で言う「地域政策形成能力」とは、「地域における政策形成を行うために、地域における実際の活動や現場の課題などを肌で感じて、そこから課題解決に向けた企画や立案をしていく能力」と考えています。

このような能力は、全ての市職員にとって必要なものではありませんが、本市では、比較的若手の職員を対象に実施しています。

今回体験した職員からは、「自治会活動は、親が行っており、自分自身は何となく関心をもっていないままでしたが、今回取材を通して実際に活動をしている方は、こんなにも熱い思いを持っているのかと衝撃を受けました。この熱い思いをどうすれば地域全体に広げられるか、また自分自身の自治会への関わり方も改めて今後考えていきたいと思いました。」「自治会の方々は大変行政にも関心をもっているし知識も高く、また年齢的にも人生経験豊富なのでお話を聞いて学ぶことが多かったと思います。」「などの感想が聞かれました。

体験した職員には、取材や報告書のまとめなど苦労も多い研修だったようですが、

それでも、この研修を通じて、地域の現場に出ることにより、今そこにある課題を実感する必要性への認識が高まったものと考えています。

今回企画した研修は、地域を元気にする検討会議での提言がきっかけですが、行政においても、職務の広域化、高度化、専門化により、地域の現場に職員が職務として出向き、地域の皆様と一緒に活動することが少なくなってきたという課題があります。

このため、今後も、このような形で職員が地域の現場に出向き、体験する研修などを通じて、地域の声を政策に反映できる職員を育成して「まちづくり」が重要であると考えています。

○市民協働のまちづくりへ向け

相模原市は、平成22年4月に政令指定都市へ移行しますが、このことにより、職員にはこれまで以上に、的確な市民サービスを提供、課題解決などについて高い能力が求められることとなります。

しかし、基礎自治体の職員として、市民協働のまちづくりを進める上で大切なことは、やはり地域にお住まいの市民の皆さん

ん方や、地域活動、市民活動を行っている団体の方々の活動の「現場」を知り、その中から課題を発見し、解決に向けた施策の立案へと結びつけることができる能力であると思います。

また、このような現場感覚を養うとともに、日々の業務遂行の中からも現場の課題を捉えることを常に意識することに加え、市民も職員も共に「まちづくり」を進めるパートナーであるという共通認識が持てるよう、お互いの役割に応じた責務を果たしていくことが重要だと思います。

このような理想的な関係は、言葉では綺麗に言うことはできますが、実際の取り組みは、拙速に事を運びこなすことができない、大変時間のかかる難しい取組であると言えます。

難しい取り組みではありますが、失敗を恐れずに、新たな仕組みへ果敢にチャレンジする気持ちを持って取り組み、地域にお住まいの「地域力の達人」の皆様とともにまちづくりを進めていけるような体制づくりに今後もしっかりとまいりたいと考えております。